

金沢大学大学院法務研究科  
2007年度「法理学」小テスト  
6月15日2限実施/出題:足立英彦  
解答・解説(30点満点)

1. 「Vを行わないことが許されている」という規範が偽(無効)である場合、以下の規範は、「真」、「偽」、「真又は偽」のいずれであるか。(8点)

(a) 「Vを行うことが命じられている。」(3点)

解答 真

解説 問題文の「Vを行わないことが許されている」( $P \rightarrow V$ )は「Vを行うことが命じられていない。」( $\neg OV$ )と等値。この命題と(a)の「Vを行うことが命じられている。」( $OV$ )とは互いに「矛盾」の関係にあり、いずれか一方が偽の場合、他方は真。

(b) 「Vを行うことが禁止されていない。」(3点)

解答 真

解説 (b)の「Vを行うことが禁止されていない。」( $\neg FV$ )は「Vを行なうことが許されている。」( $PV$ )と等値。問題文の $P \rightarrow V$ と $PV$ とは「小反対」の関係にある。一方が偽の場合、他方は真。

(c) 「Vを行わないことが命じられている。」(2点)

解答 偽

解説 問題文の $P \rightarrow V$ と(c)の「Vを行なわないことが命じられている。」( $O \rightarrow V$ )とは「大小」(順序は小大)の関係。大小関係の場合、大が真ならば小は真、すなわち、小が偽ならば大は偽。

2. aがbに対して自由権を有する場合、bはどのような法的位置にあるか(記号ではなく、文章で答えよ)。(6点)

解答 aが有する自由権の対象をGとすると、bは次のような法的位置にある。「bは、aに対して、aがGを行わないことを求める権利を有さず、かつ、aがGを行うことを求める権利も有していない。さらにbは、aに対して、aがGを行うことを妨害してはならない義務を負い、aがGを行わないことを妨害してはならない義務も負う。」

解説 「aがbに対してGという行為について自由権を有する」とは、aはbに対して自由であり(すなわち、aは、bに対して、Gをすること[作為]が許されており( $P_{ab}G$ )、かつ、Gをしないこと[不作為]も許されている( $P_{ab}\neg G$ ))、かつ、aは、bに対して、aがGをすることを妨害しないことを求める権利を有し、かつ、Gをしないことを妨害しないことを求める権利を有する、ということである。このような法的位置と法的相関関係にある法的位置を文章で書けば解答となる。

3. 「法律行為」「行政行為」及び「判決」の共通点について簡単に説明しなさい。(8点)

解答 すべて、授權規範によって権限を与えられた人又は機関が定める個別的法規範である。

解説 「個別規範」への言及に6点、授權規範への言及に2点与えた。

4. 具体的な事件において二つの原理が衝突する場合、裁判官はどのような思考過程を経て判決を導き出すべきか、「プライバシー権」と「表現の自由」という二つの原理が衝突する場合を例に説明しなさい(記号ではなく、文章で答えよ)。(8点)

解答 原理同士が衝突する場合、裁判官は以下のような思考過程を経て判決を導き出すべきである。まず、どのような一般的条件の下でどちらの原理を優先させるかを判断する。そして、この条件を構成要件とし、優先される原理を実現するために必要な手段を法的効果とする条件付の一般的法的ルールを構成し、その上で、構成されたルールの構成要件に具体的事実関係を帰属させることによって個別規範たる判決を導き出す。「プライバシー権」と「表現の自由」という二つの原理の衝突が問題となる場合、裁判官は例えば「私生活をのぞき見するかのよう描写がなされた」という一般的条件においてプライバシー権は表現の自由より優先するという判断を下し、さらに、この条件を構成要件とし、優先されるプライバシー権実現のために必要な手段たる出版差し止めを法的効果とする条件付き一般的ルールを構成し、このルールと具体的事実関係から当該書籍の出版差し止めという判決を導き出すべきである。

解説 一方の原理を優先させる条件への言及に4点、その条件と優先される原理を実現するための法的効果とを結びつけて一般的法規範(ルール)を構成する、という趣旨の説明に4点与えた。

参考情報(6月21日12:30現在)

履修登録数	受験者数	平均点
38	37	17.7

\* 27点1名、25点2名。

以上